

- 子育てサポート企業訪問
ささいなことの積み重ねでも働きやすいと感じる環境がえられる
- パパたちの交流の場、「パパサロン」
- ワーク・ライフ・バランスを公私の活力源に

- かがやくひと
- 編集後記
- インフォメーション

かがやけ地球



ささいなことの 積み重ねでも 働きやすいと感じる 環境がえられる

子育てサポート企業※に認定された、ソニーエンジニアリング(株)を訪問し、人事企画部人事2課 勝又友美さんにお話を伺いました。



※子育てサポート企業

子育てと仕事の両立のため働きやすい環境を整えていると、厚生労働大臣の認定を受けた企業をいう。次世代育成支援対策推進法に基づき、一般事業主行動計画を策定した企業が、計画に定めた目標を達成し、一定の基準を満たすと申請ができる。



勝又友美さん

昨年、第三子の出産後取得していた育児休職から復職しました。現在は育児短時間勤務制度を活用しています。

ソニーエンジニアリングでは、復職時期の延長・休暇の分割取得・活用要件の緩和など育児に関わる制度は時代に合わせ変わってきました。制度

そのものが活用しやすくなってきています。そういう点でも働きやすい環境だと感じます。

小さな変化でもそこから心の余裕がうまれます。それだけで仕事への取り組みが違ってくる。ささいなことを積み重ねることで働きやすいと感じる環境がつけられていると思います。

弊社は男性社員と比較し女性社員比率が1割です。第一子の時は、復職当時、短時間での勤務は私自身も受け入れていただく周囲の皆さんも大変だった記憶があります。そういう中でもまわりの皆さんがだんだんと状況に慣れてきたというか、なかでもこの10年ほどで社内の理解が変わったと感じています。

仕事との両立のためには家庭内の環境を整えることも大切だと考えています。家族の人数が増えればそれだけ行事や家事のボリュームが増えますし、子どもたちの年齢差によるタイムラグもあります。私が体調を崩したら…というプレッシャーはありますね。けれどもプライベートでは夫はもちろんのこと、遠方からでも手を貸してくれる親、保育園、近

所の友人がいます。あらゆるネットワークを活用できる環境を築き、助けが必要なときをお願いできることはとても心強いです。つながりが本当に大切だと思います。

仕事においては現在、時間の制限がありますので一定の区切りをきっちりみて1日を終了というわけには必ずしもいきません。そこであとにつなげる仕事の仕方、履歴を意識するように心がけています。人に任せきりにはしたくないのでできる限りのことはしながら、できなくなるかもしれないというリスクを常に頭に入れて仕事をしています。そういうところが自分なりに成長したと思います。

私はこれまで3回の育児休職を取得しているため、自分の仕事の成果とキャリア形成が結びついていません。これからは継続して会社に貢献していきたいと思うなかでどうしていくか、それがちょうど見えてきたところでもあり、今後の課題でもあります。

同じようにして復職した同僚たちと話していると、エンジニアの女性社員は時間的制約や納期などに追われる場面が多く、自分より厳しい状況があるのかなとも思います。けれども、家族の理解・協力を得、家庭の段取りをつけてでもやりたい仕事がある。そう思う女性社員がいるわけで、それは同じ女性としてサポートしたいと思わされます。キャリアをあきらめることなく仕事をしたいという考えを持った女性が社内には多くいると思います。

プライベートで育児や介護等に従事する人にとって重要なのはバランスだと思います。仕事や人に対するバランスを支えるのは、信頼できるパートナーとの関係です。両立とはバランスのことなんだと思います。

勝又さんが、自身の仕事との向き合い方について話した時、「思うようにできているかはわからない」と笑った。すかさず「できていますよ」と言ったのはインタビューに同席した上司、一木太郎統括課長。制度を整備するだけでは働きやすい環境を確保することはできないと言う。男性も女性も安心して働き、能力を発揮することのできる魅力的な企

業であるために、講演会などをとおして働き方を改革する意識の醸成に取り組んでいるようだ。

会社は社員一人ひとりの活躍に向け制度を整え、社員はそれらを活用しつつ自らの仕事を実現する。会社と社員がそれぞれの役割を担い支え合う。ここでも大切なのは「バランス」であるに違いない。(鈴木 記)



パパたちの 交流の場、

パパサロン



地域の子育て支援の拠点として機能する「子育て支援センター」。昨年4月に市内4館目の施設としてオープ



ンした六会子育て支援センターで、父親のための「パパサロン」が開催されていると聞き、訪ねてみました。

六会市民センター内の2階にある子育て支援センターに入ると、明るく広々としたフロリングにおもちゃや遊具がいっぱい。親子で遊んでいたり、お母さん同士や子育てアドバイザーとおしゃべりしたりと、とても楽しそうな様子です。第3土曜日のこの日は、「ファザーズ&マタニティデー」というパパ、プレパパ、プレママのウェルカムデーで、パパの姿も多く見られます。

月1回の「パパサロン」は、11月から開始して今日で3回目。きっかけは、他の支援センターに比べてパパの利用が多いことから。同じ空間にいてもなかなか自分から話しかけられないパパたちに、「子育てで気になっていることや悩んでいることをみんなで話しませんか?」と呼びかけてスタートしたそうです。

11時になると、室内の一角に置かれた平机を囲んで、パパサロンが始まりました。進行役はスタッフとして常駐している保育士の渡邊裕紀さん。ご自身も小学生の男の子と4か月の女の子のお父さんです。予約なしの自由参加形式なので、来所しているパパたちの中から4人の方が着席しました。渡邊さんを真ん中に、まずは自己紹介。なごやかにお話が進んでいきます。話題はパパ見知り、夜泣きに起きられない、男児と女児の違い、家事分担など多岐に亘り、経験談やアドバ

イス、「充分よくやっていると思うよ」と、ねぎらいの言葉もあったりしたようです。12時までの1時間、妻とうまくやる方法など夫の本音トークもあり、最初は緊張した面持ちだったパパたちからは、笑い声も時々出ていました。

終わった後に、参加してみてどうだったか聞いてみると、「みんなからいろいろな意見が聞けた」「悩んだり、大変なのは自分だけじゃないと思った」「また参加したい」と話してくれました。初回は8人、2回目は7人のパパが参加し、「普段聞けない他のパパの話が聞けて良かった」「子育て以外の話もできることがとても意味があった」「ベテランパパと新人パパの交流ができた」などの感想や、子どもとの遊びや関わり方など「テーマを絞った話し合いもしたい」との要望も寄せられているとか。

「皆さん仕事も育児も本当に頑張っていると感じます。プレッシャーにならないよう、イクメンという言葉は使わないようにしています。交流し、共有しながら、それぞれの形を見つけていってもらいたい」と渡邊さん。パパ同士をつなぐ試みが、他のひろばにも広がってほしいなと思いました。子育て中のパパさん、ぜひ参加してみてください。

(有田 記)



なごやかな雰囲気のパパサロン

六会子育て支援センター

☎0466-81-7772

藤沢市亀井野4-8-1 六会市民センター内2階

（ひろば）月～土曜日 9:30～16:00 （相談）月～土曜日 9:00～16:30

※ 祝日・年末年始(12/29～1/3)・第3木曜12時からお休み

ワーク・ライフ・バランスを 公私の活力源に

私がワーク・ライフ・バランスという言葉に出会ったのは2006年1月に市役所で催された篠塚英子さん(当時、お茶の水女子大学教育学部教授)の講演記録でした。この言葉の意味は“仕事と生活の調和”です。由来については“イギリスで産業界の方から就労と生活の両立支援で生産性の回復を…の声があがり、政府も支援をするという事になり、その発想が日本にも入ってきた”と書いてありました。

以降、ワーク・ライフ・バランスの推進を宣言する企業が生まれ、かつ徐々に増えつつありますが、「進展を困難にしている事象」を多くの方が体験または客観的に見ておられるでしょう。私もそんな一人として一部事例をあげてみます。

1 学校時代に遅くまで部活をしていた経験があると、成長して指導者になっても同じことを繰り返す可能性がある。

- 教師が部活の顧問を務めるのは大変な事だが、試合に勝つことを重視し過ぎると、体を壊すほど練習をさせたり、勉強をおろそかにさせたりしてしまうことがある。この問題は周囲からの影響も大きく、例えば顧問の先生が、“すみません、今大会も2回戦で敗けてしまいました”と恐縮しても、勉強と部活の両方に目を向けた指導や、選手だけでなく部員全員への指導を心掛けていれば、“次こそ頑張れ”と言うよりもまず感謝してあげてほしい。プロや全国的に一流と言えるレベルを目指している人についてはここでは何とも言えないが、それでも心身両面でバランスの考え方は必要だろう。
- 私は学校の部活で、柔道を中学から大学までやり、結果的に講道館三段にはなったが、それより大事だったのは、高校時代で言えば「①準備体操含み稽古1時間半限り、②組み合わせなど工夫しながら全員で、③礼と集中」と自分たちの基準を持っていたことである。併せて、稽古後に当日の担当部員がやかんで作る氷水と雑談も大きな楽しみだった。全体としては、私自身は全く至らな

いが一応勉強との両立(バランス)だった…。

2 毎日の仕事を全うすること、そうでなければ信頼もされないという思いを誰しも持っており、高い責任感の表し方として、時間に構わずとことんやり抜くという姿になっている。

- だからこそ互いに仕事の区切りがつけられるような話し合いが必要だろう。逆にサッと仕事を終わるのを見て拍子抜けのように感じる人がいたら、パワハラの原因にもなり、また心身消耗で長期的にマイナスでも無理をしてしまうことにもなる。
- 顧客の立場になると、ささいなことで、昼夜を問わず業者を呼びつけたりする。

3 個人差があるとはいえ人間の稼働能力(体力)には限度があり、連日朝から夜遅くまで働いている人は概ねどこかで休んでおり、労働時間全体を短くする機会が失われてしまっている。

- 周囲から見たら、いつでも必要な資料が出来上がっているなど、おかげで誰も困らないため、そこまで詳細に必要でなかったとか、少しやり方を変えればもっと早く済んだのに…というのも後で分かることがある。明るい雑談等で息抜きができる達人もいるが、そうもいかずに心身両面で病に陥ったというケースも多い。
- 私自身振り返れば、毎日の仕事の区切りは比較的早く、テニスと麻雀や、飲み会、自主グループの研修といった“ワーク・ライフ・バランス”だった。一方で、家庭は置き去りだったので恥ずかしい…後で思えば、転勤もあった45歳前後の頃から家庭への思いが強くなった。

そもそも普段目いっぱいの仕事のあり方では時間も体力もぎりぎり、仕事・家庭いずれかで緊急事態発生の際に、それ以上の頑張りが難しいのではと思われれます。

ワーク・ライフ・バランスが勧められているのを幸いに各職場で相談し、公私共に“楽しみや力を付けるチャンス”としてはいかがでしょうか。(前田 記)



聴覚障がい者手話講師 桜井容子さん 健聴者手話通訳 小菅秀さんと魅せられて

障がい福祉課では、手話講習会をNPO法人藤沢市聴覚障害者協会への業務委託で実施。昨年受講し、初めて手話に触れた。出逢った二人の講師の授業からは、ろう者の社会生活が鮮明に伝わってきた。聴覚障がい者の桜井さんはいつも全身全霊で語りかける。そして丁寧な小菅さんの解説。学ぶ楽しさを得た。



桜井容子さん

小菅秀さん

— お二人が講師になられたキッカケは？

桜井 山形から藤沢に来て20年。講師はやりたくてやったんじゃないの。講習会のことは知っていたけど。昔は手話通訳(健聴者)が教えることが多かった。ろう者の言語である手話なので、本来はろう者が教えるべきなの。その後、ろう講師と手話通訳と一緒に講師を担うことになり、協会より打診され講師を引き受けたの。小菅さんとは協会の行事で知り合い、講師のペアを組んだのは2回目。

小菅 僕は、藤沢生まれの藤沢育ち。親戚に、ろう重複障がい児がいて、その子とコミュニケーションをするために、藤沢市の初級手話講習から始めたのです。その後、中級・上級へ進み、協会の行事や遊びを通じて、ろう者の友人と出会い、気持ちを通じ合う必要度が高まりました。その後、県の養成講座から、手話通訳資格試験を受け合格、県の講師研修を経て現在に。

— 手話を覚えるのは難しい。でも2時間の授業が楽しい。

桜井 ともかく理解してもらおうと、それだけです。どうしたらわかってもらえるかとそのことばかり考え、打ち合わせしています。

小菅 授業は楽しくなければと思っています。難しくても面白くなければ学べない。いつも言うのですが、苦しい勉強は長く続かない。面白ければ興味が湧きます。楽しく学習することを第一に。講師も楽しんで、生徒も一緒に楽しければそれが一番だと。

— 手話がメディアや行政事業で取り上げられるようになりました。

桜井 今はTVやドラマも増えて、講習会を受ける機会があり、聞こえない人に会って手話の深みを知る人が増えた。趣味だけで終わっ



講師として活躍中の二人

てしまう人もいるけど。少しでも理解したいという人が増えてきていることは嬉しい。講演をすると、初めて知る、ろう社会のことが多いので真剣に聞いてくれる。手話だけの勉強では、もっと覚えようという気持ちが出てこない。いろいろ不便なことを話すと、もっと頑張ろうと思ってくれる。

— 今後の望みは？

桜井 昔ほど、ろう者と健聴者の壁はなくなったけど、もっと触れ合いお付き合いできたらと思う。手話だけでなく他の伝える方法、伝わる方法も考えることが大事。

小菅 初めて手話講習会を受講した人のうち、7年後位に手話に携わっている人は一人か二人しかいない。講習会だけで手話(技術)を学ぶのではなく、ろう者と付き合い、コミュニケーションする中でいろいろなことを学んでほしい。何よりも、手話を続けていくことが大切。

東日本大震災で亡くなった障がい者の中で、肢体不自由者の次にろう者が多かった。緊急情報が伝わらなかったからか。

手話言語条例、障がい者差別解消法と法制化は進む。が、現実社会での差別は多様にある。取材後に改めて両人の魅力を考えて。【伝えよう、理解し合おう】の強い一心が輝いていたからではないか。笑顔が終始美しい桜井講師。曖昧な理解を補う気遣いの小菅講師。男女共同作業のかがやくひとに逢えたのだ。

「手話講習会」は5月から翌春まで。平成29年度は初級コース(午前、夜間)、中級、上級、養成コース(夜間)を開催予定。

【問合せ】 藤沢市障がい福祉課 ☎0466-25-1111 内線3294



取材にあたり桜井さんの手話通訳 川上増美さん

(山口 記)

- 4年間に亘り本紙の編集に関わらせていただき、沢山のご縁と学びに感謝です。ありがとうございました。(有田)
- 流行もおさまったはずのインフルエンザが家庭内を席卷中。私一人が平常運転、それはそれで何か悲しい。(鈴木)
- 寒波、積雪の冬も遠のき命蘇る春到来。新林公園の裸木も緑のグラデーションに。(山口)
- “進め進め”が拍手のなかで“止まれ戻れ”が大事な場合も多いですね。(前田)



編集後記

インフォメーション

募集!

男女が共に生きる情報紙 「かがやけ地球」編集員を募集します!



活動内容

情報紙の企画・取材・記事作成など。

対象・人員

市内在住・在勤または在学の2017年4月1日現在18歳以上の方、若干名(選考あり)。

謝礼

1回発行ごとに7,000円(年4回発行予定)。

申し込み・問い合わせ

任意の用紙に、

- ①住所 ②氏名(フリガナ) ③生年月日 ④職業
- ⑤電話番号 ⑥編集経験の有無 ⑦応募理由・男女共同参画社会実現への「教育」「労働」「社会参加」「福祉」「健康」等の考え方(800字程度)を書いて、人権男女共同参画課(4月1日から人権男女共同平和課)へ郵送または持参ください。



人権男女共同参画課 からのお知らせ

組織改正により、**4月1日**から
「人権男女共同平和課」に
課名変更いたします。

キモチを伝えるデザインあります

チラシ・パンフレット・広報紙・HP・ショップカード・名刺・のぼり・クリアフォルダ・はっぴ・オリジナルグッズ・オリジナルキャラクターの制作、イベント企画など

㈱湘南よみうり新聞社 ☎0466-50-5088
お気軽にお問合せください。info@shonan-yomiuri.co.jp

お見積
無料

かがやけ地球は、市民の編集員さんの
企画・運営によって、年4回発行しています。

編集
スタッフ 有田 留美子・鈴木 悠子
山口 千鶴子・前田 英孝

ご意見・ご感想・今後級って欲しいテーマなどをお待ちしております!

FAX 0466-24-5928
E-mail fj-jinkendanjyo@city.fujisawa.lg.jp

古書・アウトレット本 買取と販売

買取 不要なもの、お売りください。※一部、買取れない品もあります
買取品目 書籍・CD・DVD・ゲームソフトなど
お売りいただく際は身分証明書のご提示をお願いいたします。

アウトレット本と古書の販売 詳しくは、下記ホームページで
発売後、読者の手に渡らず出版社に在庫されていた未読の本(アウトレット本)を
旧定価の20~80%OFFで販売します。他に珍品や稀少本など古書も扱っています。

藤沢駅(南口)前・有隣堂藤沢店5階
リブックス藤沢店 ReBOOKS 有隣堂
☎0466-26-1411(有隣堂藤沢店代表番号) ●ホームページ http://www.yurindo.co.jp/

毎月1回
今更ハジメの企画・ストーリーにて
楽しいイベント開催中!

藤沢駅直結

フジサワ名店ビルでは、様々な貸ホール・ギャラリーを提供しております。
教室の開催や展示会、講演などに、どうぞお気軽にご利用くださいませ。

貸室状況は下記
WEBサイトより
確認いただけます。

地域密着 “元気” デパート
フジサワ名店ビル
☎0120-111-391 営業時間 10時~21時 休日 25日・26日 藤沢市南藤沢2-1-14
☎0466-23-0111E www.fujisawa-meiten.com